

松山学院 総合V7

自転車の学校対抗総合で7連覇を果たした松山学院のメンバー
—日田市のオートポリス(提供写真)



自転車

(大分県オートポリスサーキット)
▽男子ロード競技学校対抗得点
①松山学院(愛媛)25②初芝立命館(大阪)21③東農大三(埼玉)18④帯広南商(北海道)17⑤北桑田(京

都)16⑥倉吉西(鳥取)15⑦飯明(埼玉)12⑧作新学院(栃木)10
▽松山学院は7年ぶり2度目の優勝
▽男子学校対抗得点 ①松山学院(愛媛)62②興国(大阪)20③岡山工(岡山)19④日出総合(大分)19⑤南大隅(鹿児島)19⑥倉吉西(鳥取)17⑦岐南工(岐阜)16⑧岐阜第一(岐阜)14
(3、4位は上位入賞数による)
▽女子個人ロードレース(41・優勝)
松山学院は7大会連続7度目の優勝
▽愛媛勢の成績...
▽男子個人ロードレース(83*)

「最強世代になれた」 完全制覇 他校圧倒

「これが松学だって言える走りができた。最強世代になれた」。主将として松山学院をまとめた金井健翔は言い切った。自転車の学校対抗総合で7連覇。トラックで他校を圧倒し、最終日のロードレースも総合優勝した。2017年以来、7年ぶりとなる「完全制覇」を成し遂げた。

最終日のロードレースに出た3年の金井や木綿峻介は、昨年からの中心として活躍し、世界選手権代表にも選ばれた。「自信を持って走れば連覇が途絶えることはない」と信じていたと金井。4日間で女子を含む4種目を制し、全種目で入賞。実力者のそろった世代が盤石の強さを見せた。

ロードレースでは個人優勝こそ逃したが、最後まで上の順位を争い、学校対抗で頂点に立った。7位の木綿は自らの優勝が厳しくなった終盤、2年前の経験を思い出した。「個

人で仲間が勝ったのに、チーム優勝を他校に奪われた。逆の形には持ち込めるんじゃないか」。照準を切り替え、チームの完全優勝へ力を振り絞った。

「中学までは一人で走っていた。みんなと毎日練習し、大会ではサポートしてくれる仲間がいる。高校の部活でチームワークを学んだ」と木綿は振り返った。一人一人が役割を果たした末の7連覇だった。(柳生秀人)

北部九州を主会場とする全国高校総合体育大会(インターハイ)第3日は29日、各地で6競技を行った。陸上の女子5000m競歩で岡田佳乃(川之石)が県記録を更新する23分32秒01で3位に入った。自転車は松山学院が男子の学校対抗総合で7連覇を達成した。



第3日

陸上は前日の男子4000mリレー予選で40秒64の県高校新をマークした済美が準決勝に臨んだが、敗れた。男子1000mは県高校記録を持つ畠中寧樹(済美)が準決勝に進出、決勝には届かなかった。ホッケー女子の伊予は準々決勝で敗れ、4強はならなかった。